

令和5年度の業績

事業の概況

本年度は、経営3か年計画“にしん変革2021”の最終年度として、「支援力・営業力・組織力の強化」、「経営力・人材力の強化」、「業界総合力の発揮」を重点戦略とし、地域やお客さまの課題解決に向けた価値ある提案、事業性評価による「非価格競争力」の強化や円滑な資金供給を通じた貸出金利の適正なプライシングと、役務収益の拡大に努めるとともに、フットワーク・ヘッドワーク・ネットワークを活用して、店舗毎、地域毎の特性に応じた戦略による営業体制の強化により、生産性の向上を図り、持続可能なビジネスモデルの構築を目指してまいりました。

わが国経済は、コロナ禍において抑制されていた経済活動の回復に伴い、緩やかに持ち直しているものの、中国の景気減速やウクライナ情勢の長期化、中東地域における紛争、日本銀行の金融政策の動向など、様々な不確実性を内包しており、先行きは不透明な状況に置かれています。地域経済においては、少子高齢化や人口減少などの構造的な課題を抱えるなか、原材料コストの価格転嫁の遅れや人手不足、コロナ融資の返済負担等の影響が懸念されるなど、中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いています。

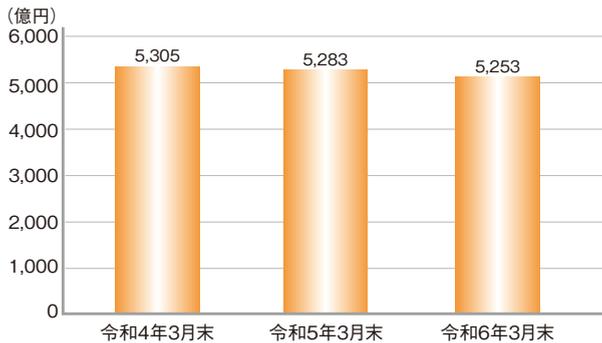
このような経済環境のもと、金融機関においては、個々の企業が抱える経営課題の把握に努め、企業のライフステージに応じたきめ細やかな経営支援に取り組むことが求められています。

このような環境のなか、当金庫では、収益性の改善に向け、経費の削減、営業体制の強化による生産性の向上に取り組み、会員の皆さまをはじめ、お取引先の皆さまのご支援のもと全役職員が重点戦略に沿って業務を推進してまいりました結果、当期の業績は以下のとおりとなりました。

預金積金

預金金利の低位推移に伴う定期預金の取り崩しや、預金から預かり資産等へのシフトなどにより、期中29億円減少して期末残高は、5,253億円となりました。

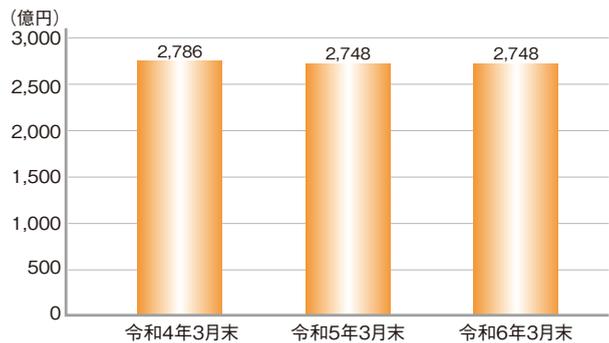
預金積金残高の推移



貸出金

事業者向け、個人向けともに積極的に推進しましたが、期中横ばいに推移して期末残高は、2,748億円となりました。

貸出金残高の推移



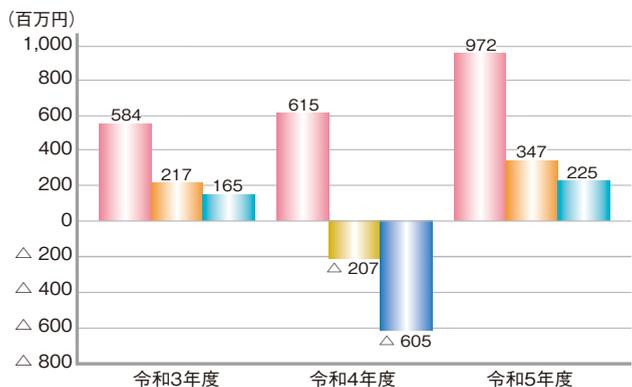
収益の状況

業務純益は、資金運用収益の増加などにより、前期比3億57百万円増加して9億72百万円となりました。

経常利益は、業務純益の増加、貸出金償却、個別貸倒引当金繰入額の減少などにより、前期比5億55百万円増加して3億47百万円となりました。

当期純利益は、前期比8億31百万円増加して2億25百万円となりました。

収益の状況 (百万円)





自己資本比率

自己資本比率は、金融機関の経営の健全性を示す代表的な指標です。一般的には総資産に占める「自己資本」の割合のことで、この自己資本比率が高いほど経営が健全で安定しているとされています。

国内業務に特化する金融機関である信用金庫では、国内基準の4%以上が必要になります。

当金庫は、健全経営による自己資本の充実に努めています。令和5年度の自己資本比率は、前年度比0.17ポイント上昇して9.37%となりました。

なお、この比率は、国内基準に適用される4%に対し、2倍を超える水準にあります。

自己資本比率の算出方法について

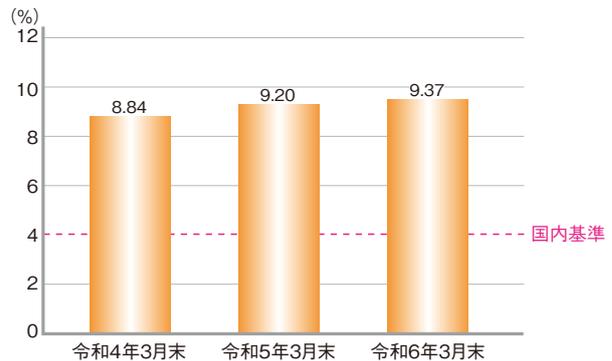
自己資本比率の算出方法は、出資金や利益準備金、特別積立金等の自己資本額を分子とし、リスクが発生する可能性がある「資産(リスク・アセット等)」を分母として計算します。

詳細は32ページに掲載しておりますので、ご参照ください。

にしんの自己資本比率(令和6年3月末)

$$9.37\% = \frac{20,111 \text{ 百万円 (自己資本額)}}{214,459 \text{ 百万円 (リスク・アセット等)}} \times 100$$

自己資本比率の推移



当金庫は、これからも自己資本の充実に努め、お客さまに安心してお付き合いいただける健全な金融機関を目指します。

不良債権

不良債権の処理促進の方針に基づき、貸出金の償却を行った結果、信用金庫法及び金融再生法に基づく不良債権は前年度比12億17百万円減少して162億48百万円となりました。

なお、信用金庫法及び金融再生法開示債権比率(不良債権の総与信に対する割合)は、前年度対比0.44ポイント減少して5.89%となりました。

信用金庫法及び金融再生法開示債権に対する保全状況は、担保・保証等及び貸倒引当金による保全額が147億44百万円(保全率90.74%)となります。

当金庫は、これからも不良債権の発生の未然防止と処理促進に努めてまいります。

信用金庫法及び金融再生法開示債権保全状況

(単位:百万円)

| 開示区分 | 令和5年3月末 | 令和6年3月末 |
|-------------------------|---------|---------|
| 信用金庫法及び金融再生法に基づく不良債権(A) | 17,465 | 16,248 |
| 破産更生債権及びこれらに準ずる債権 | 4,849 | 4,451 |
| 危険債権 | 10,617 | 9,759 |
| 要管理債権 | 1,998 | 2,036 |
| 三月以上延滞債権 | — | — |
| 貸出条件緩和債権 | 1,998 | 2,036 |
| 正常債権 | 258,299 | 259,360 |
| 保全額(B) | 16,212 | 14,744 |
| 担保・保証等 | 13,075 | 11,571 |
| 貸倒引当金 | 3,136 | 3,172 |
| 保全率(B/A) | 92.82% | 90.74% |

信用金庫法及び金融再生法に基づく開示債権比率の推移

